

平成13年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2002・3

小矢部市教育委員会

平成13年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2002・3

小矢部市教育委員会

序

小矢部市は富山県の西端に位置し、面積134km²、人口約35,000人の市です。三方を丘陵に囲まれ、東は広大な庄川扇状地に続く平野部が開けています。市名の由来となった小矢部川は丘陵沿いに蛇行しながら流れ、市域を丘陵と平野部に二分し、平野の大部分は水田地帯で占められています。

小矢部市教育委員会では昭和54年度から59年度まで6ヵ年をかけて市内の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施し、その詳細な分布状況を把握しました。その後の発掘調査等の結果から見直しを行い、さらに新しく発見されたものについては逐次追加し、現在201ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が知られています。こうした周知の埋蔵文化財包蔵地内における民間の各種開発に対応するため、平成4年度からは国庫補助を受けて市内遺跡発掘調査等事業を実施しております。

本年度は立会調査を含め6件の調査を行いました。本書はそれらの調査の概要を報告するものです。調査にあたりましては開発行為者及び土地所有者・地元の方々にご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

平成14年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

- 1 本書は富山県小矢部市で平成13年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業の概要を報告するものである。
- 2 発掘調査は国庫補助50%、県費25%、市費25%の費用負担割合で実施した。
- 3 調査は桜町遺跡(第11調査区)を神保孝造(富山県埋蔵文化財センター企画調整課係長)・大野淳也(小矢部市教育委員会文化課主事)が担当し、その他を高木場万里(同主任)が担当した。
- 4 現地調査は平成13年5月9日から同10月22日まで実施し、整理作業は平成13年12月11日から平成14年3月29日まで行った。
- 5 本書の編集・執筆は大野、高木場が担当し、執筆分担は文末に記した。
- 6 現地調査での土層断面図・遺構概略図等の作成は上田寿美子、石黒淑元が行い、遺物の実測は床平慎介(富山大学人文学部学生)が行った。
- 7 遺物及び図面、写真等の資料は小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

序

I	平成13年度の事業概要	1
	市内遺跡発掘調査等一覧	1
	市内遺跡発掘調査等位置図	2
II	試掘調査の概要	
1	桜町遺跡(第11調査区)	3
2	桜町遺跡(桜町前地区)	6
3	埴生条里遺跡(大勢町I地区)	9
4	埴生条里遺跡(大勢町II地区)	11
5	蟹谷条里遺跡(平田地区)	13

報告書抄録

挿　図　目　次

図1	調査位置図	…3	図15	T2西壁土層断面図	…10
図2	深掘り調査の位置	…4	図16	調査全景(南から)	…10
図3	掘削風景	…4	図17	調査位置図	…11
図4	深掘り断面模式図	…4	図18	調査区設定図	…11
図5	出土遺物実測図	…4	図19	T1西壁土層断面図	…12
図6	土石流影響範囲想定図	…5	図20	調査区全景(北から)	…12
図7	調査位置図	…6	図21	調査位置図	…13
図8	調査区設定図	…6	図22	調査区設定図	…13
図9	T1西壁土層断面図	…7	図23	遺構概略図	…14
図10	出土遺物実測図	…7	図24	T2南壁土層断面図	…15
図11	調査区全景(南から)	…8	図25	調査区全景(東から)	…15
図12	T1全景(南から)	…8	図26	SD-1(T1北から)	…16
図13	調査位置図	…9	図27	SD-2(T1北から)	…16
図14	調査区設定図	…9			

I 平成13年度の事業概要

1 はじめに

平成13年度小矢部市内で実施した発掘調査は7件、その内訳は国道8号バイパス建設に伴う桜町遺跡の本調査及び試掘調査1件、桜町遺跡の全体像把握のための確認調査1件、個人住宅建設ほか民間開発に伴う試掘調査4件、立会調査1件である。このほかに農業振興地域除外、農地転用、建築確認等の申請時、開発行為の事前打合せや電話等の問い合わせによる現地確認などが20件あまりにのぼる。

小矢部市では平成4年度から、市内遺跡発掘調査等事業として、市内の埋蔵文化財包蔵地内における開発事業に先立ち、国庫補助を受けて試掘調査等を実施している。本年度は、上記7件のうち桜町遺跡の確認調査を含む試掘調査5件、立会調査1件の6件がこれに該当する。調査対象面積は5,770m²である。

調査の原因となった開発行為別にみた内訳は重要遺跡確認調査1件、個人住宅等建設2件、アパート建設1件、店舗・倉庫等建設2件である。また原因となった事業者別では個人4件、民間企業1件、市（文化財保護部局）1件である。

2 試掘調査

本年度は桜町遺跡（第11調査区）、桜町遺跡（桜町前地区）、埴生条里遺跡Ⅰ・Ⅱ、蟹谷条里遺跡の5件について試掘調査を実施した。それぞれの調査については、改めて後述する。

3 立会調査

立会調査は桜町遺跡（中出地区）において実施した。住宅敷地内における車庫の建設で、掘削深度が宅地造成時の盛土内であったため、遺構・遺物とも確認できなかった。

市内遺跡発掘調査等一覧

No.	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	調査期間	調査結果	調査原因
1	桜町遺跡 (第11調査区)	桜町字舟岡 2351外	1,900m ² (16.8m ²)	試掘調査	13.7.26 ~7.27	遺構確認されず。 縄文土器出土。	遺跡全体像把握の ための確認調査
2	桜町遺跡 (桜町前地区)	西中野字桜町前 1219-1外	165m ² (20m ²)	試掘調査	13.5.9 ~5.15	弥生終末期土坑?疊壁。 弥生土器、須恵器、十輪器出土。	個人住宅等建設
3	埴生条里遺跡 (大勢町Ⅰ地区)	野端96-1外	447m ² (56m ²)	試掘調査	13.7.5 ~7.13	溝?確認。 須恵器、寛永通寶出土。	アパート建設
4	埴生条里遺跡 (大勢町Ⅱ地区)	野端103-1	209m ² (24m ²)	試掘調査	13.9.3 ~9.6	遺構確認されず。 須恵器、珠洲出土。	中古車展示場造成
5	蟹谷条里遺跡 (平田地区)	平田3234	2,949m ² (266m ²)	試掘調査	13.9.26 ~10.22	柱穴、溝、穴、川跡確認。 珠洲出土。	冷蔵倉庫建設
6	桜町遺跡 (中出地区)	桜町1752	100m ²	立会調査	13.10.3	遺構確認されず。 遺物出土せず。	車庫等建設



市内遺跡発掘調査等位置図(1:50,000)

●試掘調査 ▲立会調査

II 試掘調査の概要

1 桜町遺跡(第II調査区)

1 はじめに

桜町遺跡舟岡地区では、国道8号バイパス建設に係る発掘調査においてその路線内で縄文時代の集落が確認されている。第II調査区はその集落範囲の広がりを確認することを目的として、バイパス用地北側の民有地部分に設定した調査区であり、平成11年度より調査を行っている。

過去2年間の試掘調査の結果、本調査区の大部分は縄文時代晚期以降の土石流による削平を受けていることが確認され、わずかに残る東側の微高地状地形部分でも縄文時代の遺構は確認されず、すでに流失しているものと考えられた。

今年度の調査は縄文時代の遺構を削平したと考えられる土石流の影響範囲、なかでもその影響深度を把握し、あわせて土石流下に遺構が残存する可能性の有無を確認することを目的とした。



図1 調査位置図
(1:5,000)

2 調査の概要

調査区内の土石流による削平が想定される範囲内に2ヶ所深掘り地点を設定し、クラムシェル・バケットを装着した重機により地表下5m付近まで垂直に掘削、断面観察を行った。記録は、垂直5mの掘削という掘削方法と砂砾を主体とするという土質の面から崩落の危険性があったため、地表からの写真撮影と略測の土層図の作成にとどめた。発掘面積は2本で約16.8m²である。

層序

各地点での層序は以下の通りである。

深掘りNo. 1

調査区北東部に設定。地表下2.5m付近で礫層を確認。4.4m付近まで続く。地表下3m付近の礫粒径が変化する境までが土石流の影響範囲か。礫層の下は

1 桜町遺跡(第II調査区)

粗砂。遺物は出土せず。下層に遺構面は認められない。

深掘りNo.2

調査区中央部に設定。地表下1.5m付近の黒褐色シルト中より縄文土器片出土。

地表下2.4m付近の砂疊層までが土石流の影響範囲か。その下はそれ以前の本来の谷の堆積層と見られる。下層に遺構面は認められない。

出土遺物

遺物は深掘りNo.2より出土の土器片5点のみである。いずれも縄文中期の土器片で、國化が可能な3点を図示した。図5-1には半截竹管文が見られる。3の底部にはスダレ状圧痕が見られる。

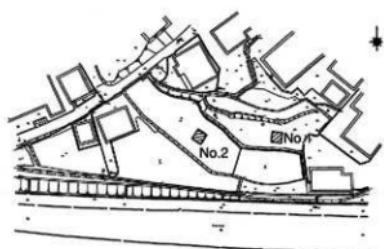


図2 深掘り調査の位置(1:1,500)



図3 挖削風景

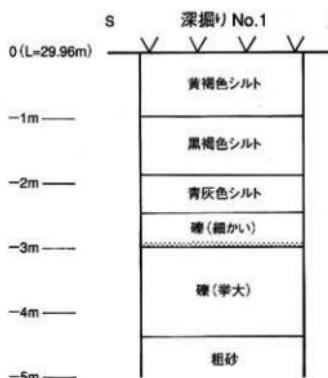


図4 深掘り断面模式図

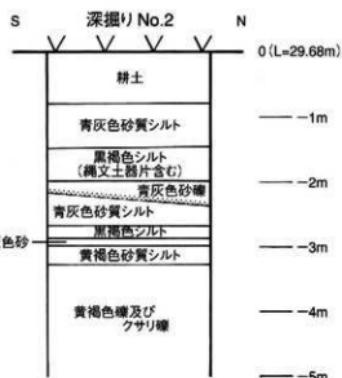
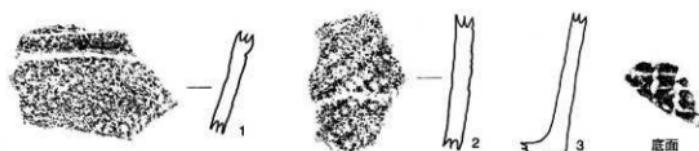


図5 出土遺物実測図(1:2)



3 まとめ

今回の調査を含め、3次にわたる調査の結果から、第11調査区では縄文時代の遺構は残存しないものと考えられる。その原因としては、南西方向から発生した土石流による削平が想定され、今回の調査ではその影響深度が現地表下2.4~3mに及ぶことが確認された。なおこの土石流の発生時期については、バイパス路線内の調査で同様の疊層が縄文晩期の遺物包含層を削平している状況が確認されたことから縄文晩期以降としていたが、今年度に実施したバイパス路線内疊層採取の試料による放射性炭素年代測定の結果 2310 ± 40 BPという年代が得られたことから、およそ縄文晩期末頃の時期とみられる。

今年度出土した遺物は縄文中期の土器片数点であるが、これは晩期末頃に発生した土石流が縄文晩期だけでなく中期の遺構面も削平した結果と考えられる。縄文時代を主な時期とする谷部(舟岡地区)のバイパス路線内を中心とするこれまでの調査では、縄文中期後半~後期初頭にかけての遺構・遺物の広がりが谷の東側出口付近で確認されており、谷の中央部付近では縄文後期末~晩期の遺構・遺物の広がりが確認されている。その分布状況から、第11調査区周辺はこれらの広がりが重複する場所であったと推察されるが、晩期末頃に発生した土石流が南西から北東方向に削平を及ぼし、結果として舟岡地区的縄文時代遺跡範囲を二分しているものと考えられる。

縄文時代以降の第11調査区周辺の状況は資料的にほしく判然とはしないが、遺物は少量ながら古墳時代から認められる。上石流による影響からか低地化していた地形はその後の堆積によって徐々に平地化して行き、その中でも縁辺の比較的高所の部分では、平安時代後半頃以降には遺構とともに一定量の遺物が認められ、再び集落化していくものと考えられる。

(大野)



図6 土石流影響範囲想定図(1:2,500)

2 桜町遺跡(桜町前地区)

1 はじめに

調査区は桜町遺跡北端の中央に位置する。昭和60年に国道8号小矢部バイパス建設に先立ち調査を実施した中出地区に南接する。また、この一角はたびたび住宅建設等の開発が行われており、昭和61年、平成10年、12年度にそうした開発に伴う調査を実施し、12年度の調査では弥生終末期の溝を確認し、比較的まとまった資料が出土している。今回の調査も住宅建設に伴うものであり、



図7 調査位置図
(1:5,000)

2 調査の概要

12年度の調査区とは幅3m程の私道をはさんで東側に位置するため10年、12年と統いて確認された溝の続ぎが期待された。

現地調査は平成13年5月9日から15日までの5日間である。調査区内に幅1m、長さ10mのトレンチを南北に2本設定し、西からT1、T2とした。調査面積は20m²である。人力掘削により地表下1.3mまで掘り下げた。

基本層序はI層；盛土。II層；灰黃褐色シ

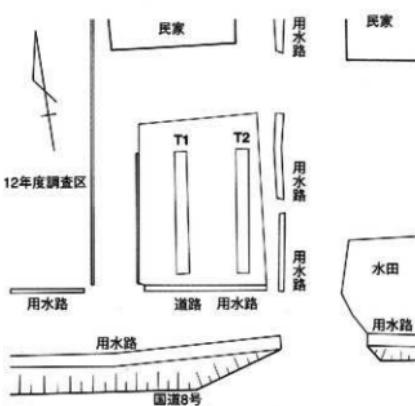


図8 調査区設定図 (1:400)

ルト(旧耕作土)。Ⅲ層; 黒褐色シルト(遺物包含層)。Ⅳ層; 黒色粘質シルトである。

遺構はT1において穴1基(土坑?)を断面で確認した。中から弥生土器片(壺体部)が出土している。12年度調査に統く溝については確認できなかった。

遺物はⅢ層下層から弥生土器が、Ⅲ層上層から土師器、須恵器が整理コンテナ2箱分出土した。

3 まとめ

わずかな面積の調査であったうえ、近隣住宅の水道管、排水管あるいは水田の暗渠排水管などが調査区内を通っており、とくにT2ではこれらの施工による搅乱が著しかった。

遺構は土坑かと思われる穴1基である。出土した遺物から12年度調査区で確認した溝と同時期(弥生終末期)と考えられる。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器があるが、壺の体部などが多く、明確な時期の決め手になるものは少ないが、弥生土器は弥生終末期、土師器、須恵器は古墳・奈良時代である。
(高木場)

図9 T1 西壁土層断面図
(1:100)

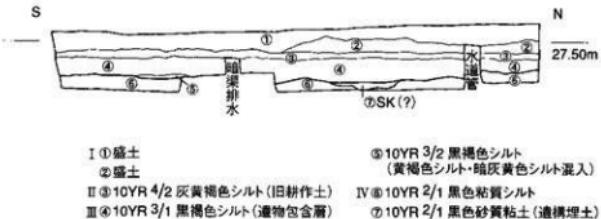
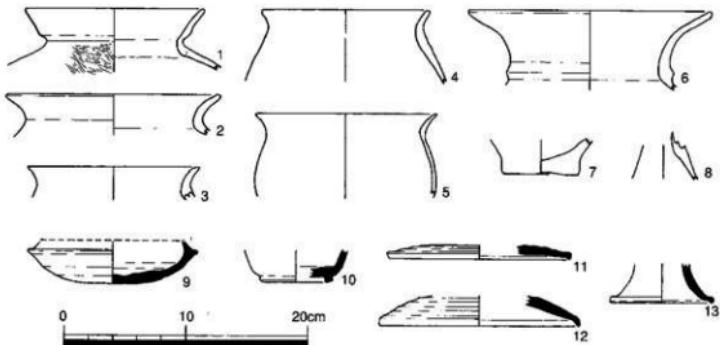


図10 出土遺物実測図



2 桜町遺跡(桜町前地区)



図11 調査区全景
(南から)



図12 T1全景(南から)

3 塗生条里遺跡(大勢町I地区)

1 はじめに

調査区は遺跡北部西端に位置する。古くから中世条里地割りが残る地域として知られ、平成4年度富山県埋蔵文化財包蔵地図の作成に伴い、塗生条里遺跡として周知化されたが、これまで近隣で調査が行われたことはなかった。



図13 調査位置図
(1:5,000)

今回の調査はアパート建設
に先立つものである。

2 調査の概要

現地調査は平成13年7月5日
から13日まで4日間実施した。
1m×32m (T1)、1m×22m
(T2)の2本のトレンチを設定
し、人力により地表下80cmまで
掘削した。下層の確認のため
部分的に深掘りを行い地表
下1.3mまで掘り下げた。調査
面積は56m²である。

基本層序はI層;暗灰黄色粘
質土(耕作土)。II層;黒褐色粘
質土。III層;灰色粘質土(砂混じ
り)である。IV層から下は砂混じ
りの灰色粘質土と黒色粘質土が
交互に堆積する。I層はよく耕

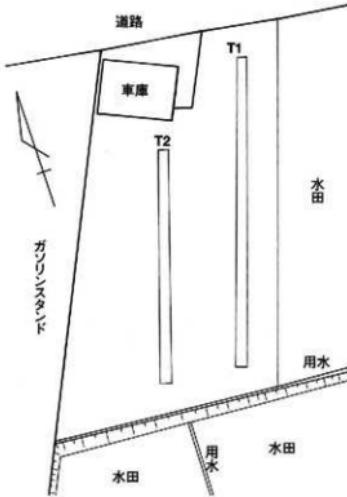


図14 調査区設定図(1:500)

作されている上層をa層、鉄分の沈着が多く、締まった下層をb層としたが、基本的には同じである。

T2においてII層黒褐色粘質土にI層の暗灰黄色粘質土(耕作土)が切り込む溝状の落ち込みを確認した。1m前後の間隔で8本がほぼ等間隔にならぶ。幅40~60cm、深さ20cm前後である。遺物の出土はない。

遺物は土師器、須恵器、中世土師器、近世陶磁器類、錢貨(寛永通寶)など多彩であるが、いざれも遺構に伴うものではなく、I b層とII層の上面から出土している。

3まとめ

今回の調査においては、8本の溝状の落ち込みを確認したが、遺物の出土はなく、時期および性格とも不明である。耕作土直下であること、埋土が耕作土と同様であることなど、かなり新しい可能性もある。また、中世条里地割りに関する遺構も確認できなかった。

遺物は、古代から中世・近世のものがあるが、新しいものと、古いものが混在して出土しており、後世の搅乱あるいは他所からの混入も考えられる。

(高木場)

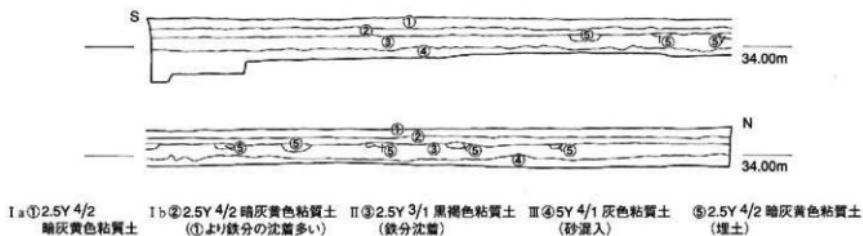


図15 T2 西壁土層断面図(1:100)



図16 調査区全景
(南から)

4 塗生条里遺跡(大勢町Ⅱ地区)

1 はじめに

調査区は先に実施した塗生条里遺跡(大勢町Ⅰ地区)の道路をはさんで北側にあたる。前回同様遺跡全体の北部西端に位置する。中古車販売展示場の造成に伴う調査である。

図17 調査位置図
(1:5,000)



2 調査の概要

調査は平成13年9月3日から6日まで3日間実施した。調査区中央に $1.5m \times 16m$ のトレンチを1本設定し、人力により地表下70cmまで掘り下げた。調査面積は $24m^2$ である。

基本層序はⅠ層；暗灰黄色粘質土(耕作土)。Ⅱ層；黒褐色粘質土。Ⅲ層；黒色粘質土である。

Ⅰ地区と同じく、Ⅲ層から下は粘質土と砂質土が交互に堆積する状態が見られたので、それ以上の掘削は行わなかった。ここでもⅠ層はよく耕作された上層をa層、締まった下層をb層とした。

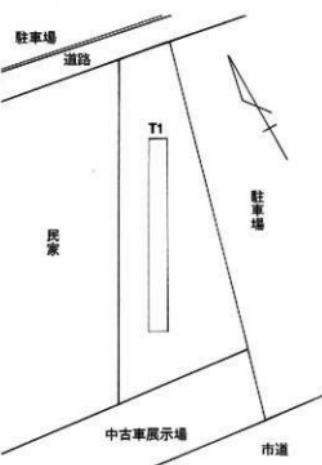


図18 調査区設定図(1:400)

遺構の確認はできなかった。遺物はⅠ層及びⅡ層から須恵器、中世土師器、珠洲、近世陶磁器類が出土した。

3まとめ

今回の調査区では、遺構の確認はできなかった。出土遺物は、古代から中世・近世におよぶが、包含層の堆積はなく、異なる時期の遺物が混在して出土した。I地区同様、後世の搅乱または他所からの混入なども考えられる。

今回調査した塗生条里遺跡大勢町I地区・II地区はともに塗生条里遺跡の北部西端に位置するが、中世条里地割りに関する資料は得られなかつた。

(高木場)

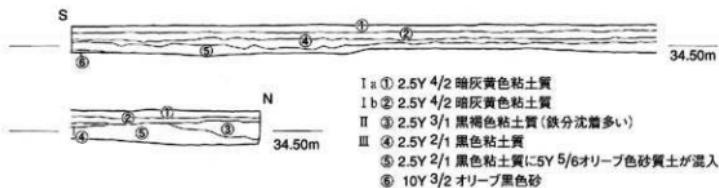


図19 T1 西壁土層断面図(1:100)

図20 調査区全景
(北から)

5 蟹谷条里遺跡(平田地区)

1 はじめに

調査区は蟹谷条里遺跡の中央に位置する。このあたりはほ場整備前までは中世の条里地割りが残る地域として知られ、平成4年度蟹谷条里遺跡として周知化された。冷蔵倉庫建設に先立つ調査である。本調査区と南側に隣接する水田とが建設用地であるが、南側の水田は、平成10年度に瓦粘土採取に伴い試掘調査を実施し、中世の柱穴を確認している。



図21 調査位置図
(1:5,000)

2 調査の概要

現地調査は平成13年9月26日から10月22日まで12日間実施した。1.5m×80mのトレンチを東西に2本、それに直交する1.5m×17mの南北トレンチを1本設定した。掘削面積は266m²である。重機により表土剥ぎを行った後、人力により精査をし、地表下60cmまで掘り下げた。一部下層確認のための深掘を行い1.2mまで掘り下げた。また、トレンチ中央と西側において、川の跡を確認したので、その部分については川底1.5mまで掘り下げた。

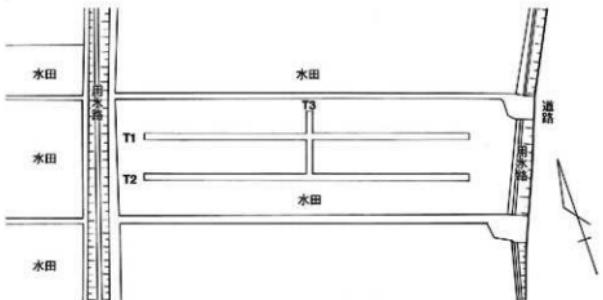


図22 調査区設定図
(1:1200)

基本層序はⅠ層;耕作土。Ⅱ層;ほ場整備による盛土及び埋土(旧耕作土、灰色粘土、明オリーブ灰色粘土がブロック状に入り交じっている)。Ⅲ層;明オリーブ灰色粘土である。

遺構は溝3本(SD1~3)、穴12基(P1~12)、川跡2本を確認した。

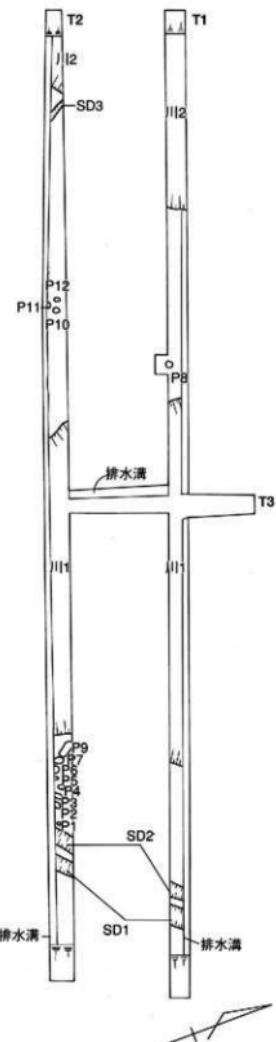
遺物は珠洲、陶磁器類がⅡ層から数点出土した。

3まとめ

確認した遺構はその埋土などから3つのグループにわけられる。①SD1~3、P8。②P1~7、P9~12。③川跡である。遺構内からの遺物の出土は、川跡から珠洲が出土したほかはなかった。

①の遺構については、平成10年度調査で検出した柱穴と同様な灰色粘質土の堆積が見られ、中世の遺構である可能性が高い。P8は径50cm、深さ60cm、柱穴であろうと考えられる。SD1は幅1.6m、深さ20cm。SD2は幅1.4m、深さ15cm。比較的浅いがほ場整備により削平されていると考えられる。③の川跡については、ほ場整備前にこの辺りに川が2本流れていたことを地元の方から聞いており、その川に相当するものである。珠洲が出土しているが、空缶・ビン類などの混入も見られる。

本調査区では、中世に属すると考えられる遺構を検出したが、ほ場整備によりその大半が削られていることを確認した。



(高木場) 図23 遺構概略図(1:400)

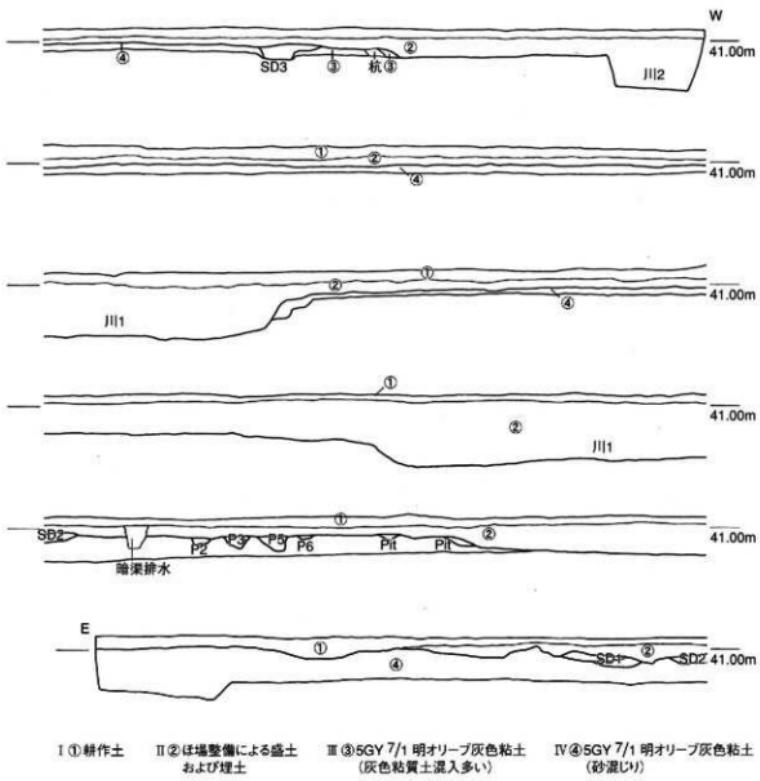


図24 T2 南整土層断面図(1:100)



図25 調査区全景
(東から)

5 蟹谷条里遺跡(平田地区)



図26 SD1
(T1北から)

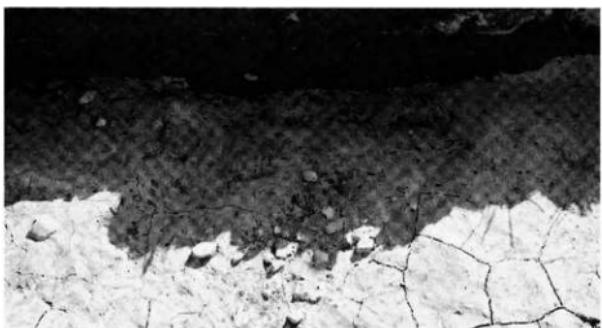


図27 SD2
(T1北から)

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうさんねんどおやべしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう						
書名	平成13年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報						
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第50号						
編著者名	大野 浮也 高木場 万里						
総集機関	小矢部市教育委員会						
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市木町1番1号 TEL 0766-67-1760						
発行年月日	西暦2002年3月29日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 番号	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
桜町遺跡 (第11調査区)	小矢部市桜町 宇舟岡2351外	16209 021	36° 41' 11"	136° 52' 24"	20020726 ↓ 20020727	1,900 m ²	遺跡全体像 把握のための 確認調査
桜町遺跡 (桜町前地区)	小矢部市桜町 宇桜町前 1219-1外	16209 021	36° 41' 10"	136° 52' 36"	20020509 ↓ 20020515	165 m ²	個人住宅建設 等
埴生条里遺跡 (大勢町Ⅰ地区)	小矢部市野堀 96-1外	16209 185	36° 39' 58"	136° 51' 42"	20020705 ↓ 20020713	477 m ²	アパート建設
埴生条里遺跡 (大勢町Ⅱ地区)	小矢部市埴生 390-1外	16209 185	36° 39' 59"	136° 51' 42"	20020903 ↓ 20020906	209 m ²	中古車販売 展示場造成
蟹谷条里遺跡 (平田地区)	小矢部市平田 3234	16209 187	36° 37' 56"	136° 51' 00"	20020926 ↓ 20021022	2,949 m ²	冷蔵倉庫建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
桜町遺跡 (第11調査区)	散布地	縄文	確認されず	縄文土器			
桜町遺跡 (桜町前地区)	集落跡	弥生・終末・奈良	土坑?(弥生終末)	弥生土器・須恵器・土師器			
埴生条里遺跡 (大勢町Ⅰ地区)	散布地	古代・近世	溝?(近世~)	須恵器・寛永通寶	条里遺構確認できず		
埴生条里遺跡 (大勢町Ⅱ地区)	散布地	古代・中世	確認されず	須恵器・珠潤	条里遺構確認できず		
蟹谷条里遺跡 (平田地区)	条里	中世	柱穴1・溝3 穴11・川(~昭和)	珠潤			

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第50冊

平成13年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 2002年3月29日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

TEL 0766-67-1760

印 刷 39デザイン印刷

